

# 02 Value Creation Story

## 価値創造ストーリー



2-1 パーパスと価値創造プロセス	22
2-2 事業と製品	24
2-3 競争力の源泉	25
2-4 技術イノベーション	26
2-5 歴史と変遷	27
2-6 環境認識と重要課題(マテリアリティ)	29
2-7 重要課題(マテリアリティ)への取り組みと進捗	30

## 2-1 パーパスと価値創造プロセス

医師やお取引先様のニーズに独自の技術力で挑戦、  
グローバルニッチトップ企業であり続けます。

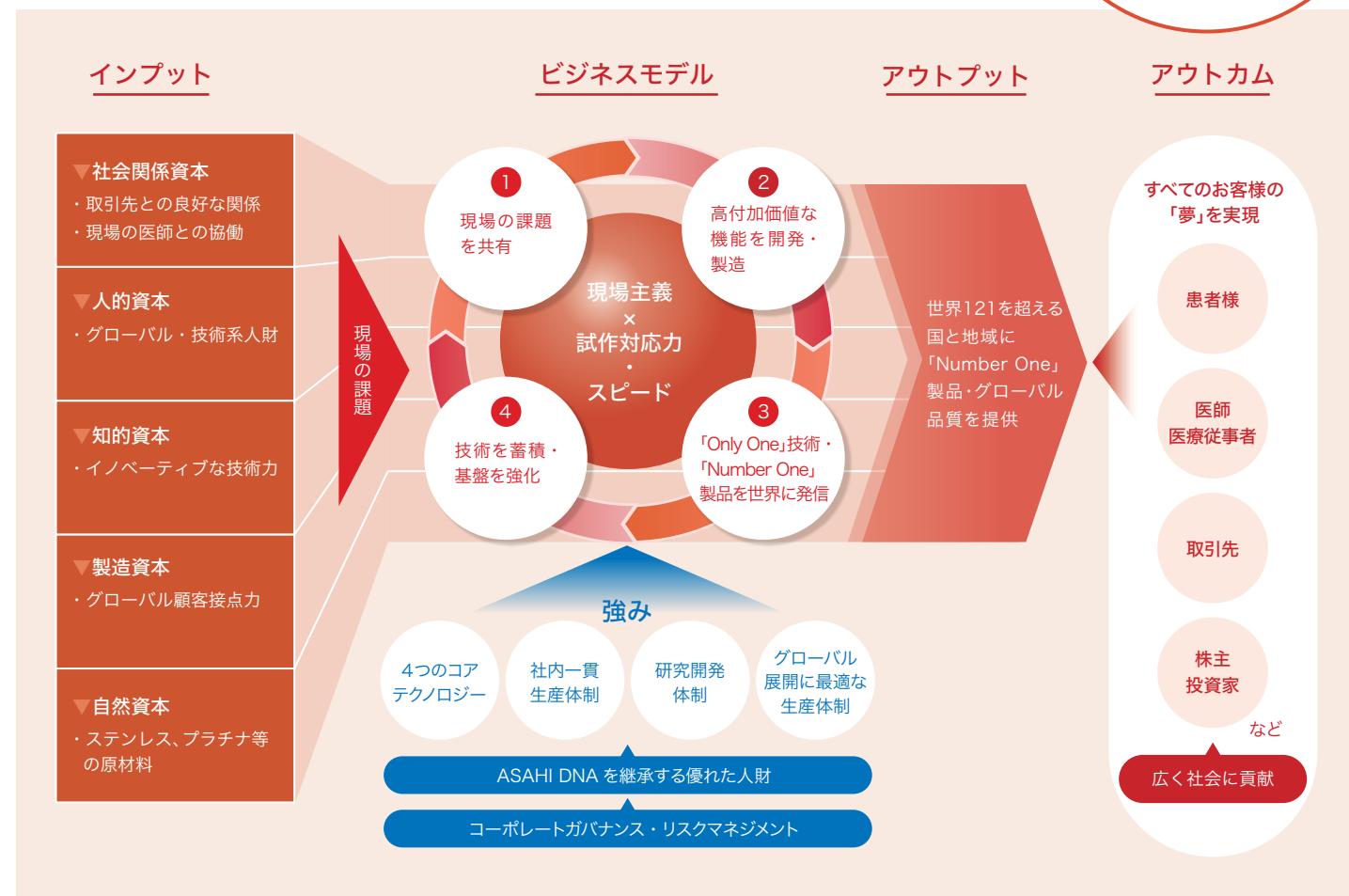
健康寿命の  
延伸への貢献

低侵襲治療において  
臨床課題を総合的に  
解決できる企業

### ● パーパス

世界中の医師やお取引先様のニーズに当社  
独自の技術力で挑戦し続けることにより、高  
付加価値な「Number One」製品をグロー  
バル品質で提供し、世界中のお客様の「夢」を  
実現していきます。

常に世界市場を見据え、果敢に挑戦すること  
で、社会の持続的発展に貢献し、グローバル  
ニッチトップ企業であり続けることを目指して  
まいります。



## 2-1 パーパスと価値創造プロセス

ステークホルダーと信頼関係を構築しながら企業活動の成果を分かち合い、長期的な企業価値向上を目指します。

## 朝日インテックの存在意義

当社グループは、医療機器分野および産業機器分野の研究開発型企業として、安全と信頼を基盤とする「Only One」技術や「Number One」製品を世界に発信し続けることにより、全てのお客様の「夢」を実現するとともに、広く社会に貢献することを、企業理念としています。

医療機器分野では、傷口が小さく痛みが少ない「低侵襲治療」の製品を開発・製造・販売しており、患者様のQOL (Quality of Life) の向上、早期退院の実現など、人々の健康と医療に関わる社会課題の解決に貢献しています。

近年、産業や経済のグローバル化が進展すると共に、SDGs(持続可能な開発目標)をはじめとした地球規模の社会課題に対する企業の積極的な取り組みが求められています。当社グループは、研究開発型企業として、独自の技術力を磨き続けることにより、全世界の医療・産業に貢献すると共に、ESGの視点からの経営基盤の強化に取り組んでまいります。

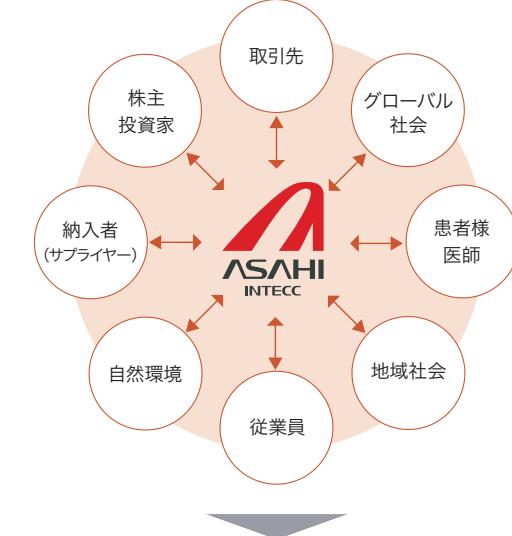
## 朝日インテックのステークホルダー

当社グループは、さまざまなステークホルダーと信頼関係を構築しながら企業活動の成果を分かち合い、長期的な企業価値向上を目指しています。

## 朝日インテックのサステナビリティ

当社グループのサステナビリティとは、ステークホルダーとの信頼関係を構築すること、価値創造プロセス(事業の推進と基盤の強化の好循環)に取り組み、企業理念を実践すること、それにより「ASAHIブランド」(コーポレートブランド)を確立することと考えています。

ステークホルダーとの信頼関係を構築



価値創造プロセスに取り組み、企業理念を実践

「ASAHIブランド」(コーポレートブランド)を確立

ステークホルダー	当社との関係性・当社の責任
従業員	育成・働きやすい職場づくり
患者様・医師	現場の課題共有・価値共創
取引先/納入者(サプライヤー)	持続可能な調達
地域社会	企業市民として地域社会の発展を支える
グローバル社会	事業を通じた社会課題の解決
株主・投資家	建設的な対話
自然環境	環境負荷低減



## 2-3 競争力の源泉

朝日インテックの競争力の源泉は、4つのコアテクノロジーを主体とした高度で独自性の高い素材加工技術と、素材から完成品までの一貫生産体制です。これに加えて、創業以来、変わることのない現場主義というDNAと、他社には真似できない「試作対応力」と「スピード」が大きな強みになっています。

朝日インテックは研究開発型企業として、常に高いレベルでの製品づくりを実践しています。

素材から完成品に至るまで、自社内で一貫生産することを創業以来の基本方針としており、お客様からの高度なニーズにお応えする過程で生み出され、そして培われた数々の素材加工技術を保有しています。

特に「伸線技術」「ワイヤーフォーミング技術」「樹脂コーティング技術」「トルク技術」の4つのコアテクノロジーは、他社にはない当社独自の技術力であり、これらを複合的に組み合わせて高性能製品を生み出しています。

もともと産業機器メーカーであった当社ですが、これらの4つのコアテクノロジーを活かせる分野として、血管治療用のPCIガイドワイヤー・カテーテルの開発・製造・販売を皮切りに、1994年に医療機器事業へ参入いたしました。特に高度なトルク技術は、医師の指先の感覚を忠実にガイドワイヤーに伝える上で大きな競争優位性になっています。

そしてさらに、その後の大きな転機になったのは、カテーテル治療の第一人者である医師からのCTO病変の治療を可能とするPCIガイドワイヤーの開発依頼でした。

CTO病変を、外科手術ではなく、カテーテル治療で行なうことは当

時の技術水準では実現不可能と言われていましたが、当社は独自の技術力をもって挑戦し続け、試行錯誤を繰り返した結果、世界で初めてCTO治療用のPCIガイドワイヤーの開発に成功いたしました。

当社が当製品を開発したこと、カテーテル治療の成功率を大きく向上させることを実現し、欧米主導の医療業界において日本からカテーテル治療の新しい潮流を発信する先駆けとなりました。

現場の声に沿った開発を行なったことで、当社製品を使用した医師の方々による学会での治療成功症例の報告や、海外でのご活躍により、当社の製品と技術は世界中で知られるようになりました。

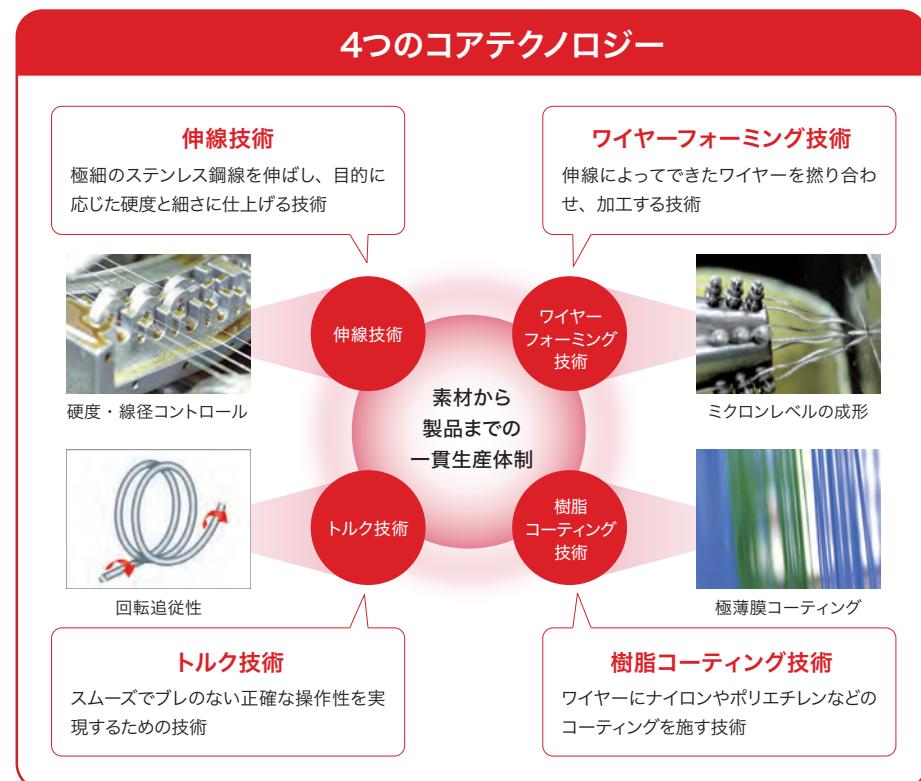


## 2-4 技術イノベーション

4つのコアテクノロジーを複合的に組み合わせ、高性能製品群を創出しています。  
M&Aや提携先企業の技術との融合により、技術イノベーションによる新規事業の創出を目指します。

当社グループは研究開発型企業として、常に高いレベルでの製品づくりを実現しています。それを可能にしているのは、お客様からの高度なニーズにお応えする過程で生み出され、培われた数々の独自技術です。「伸線技術」「ワイヤーフォーミング技術」「樹脂コーティング技術」「トルク技術」という4つのコア

テクノロジーを自社で保有し、素材から製品までの一貫生産体制のもと、複合的に技術を組み合わせて高性能製品を生み出しています。



M&Aや提携先企業の持つ新たな技術と、当社のコア技術や医療機器分野で培ったノウハウを融合し、技術的イノベーションや新製品の創出を目指してまいります。

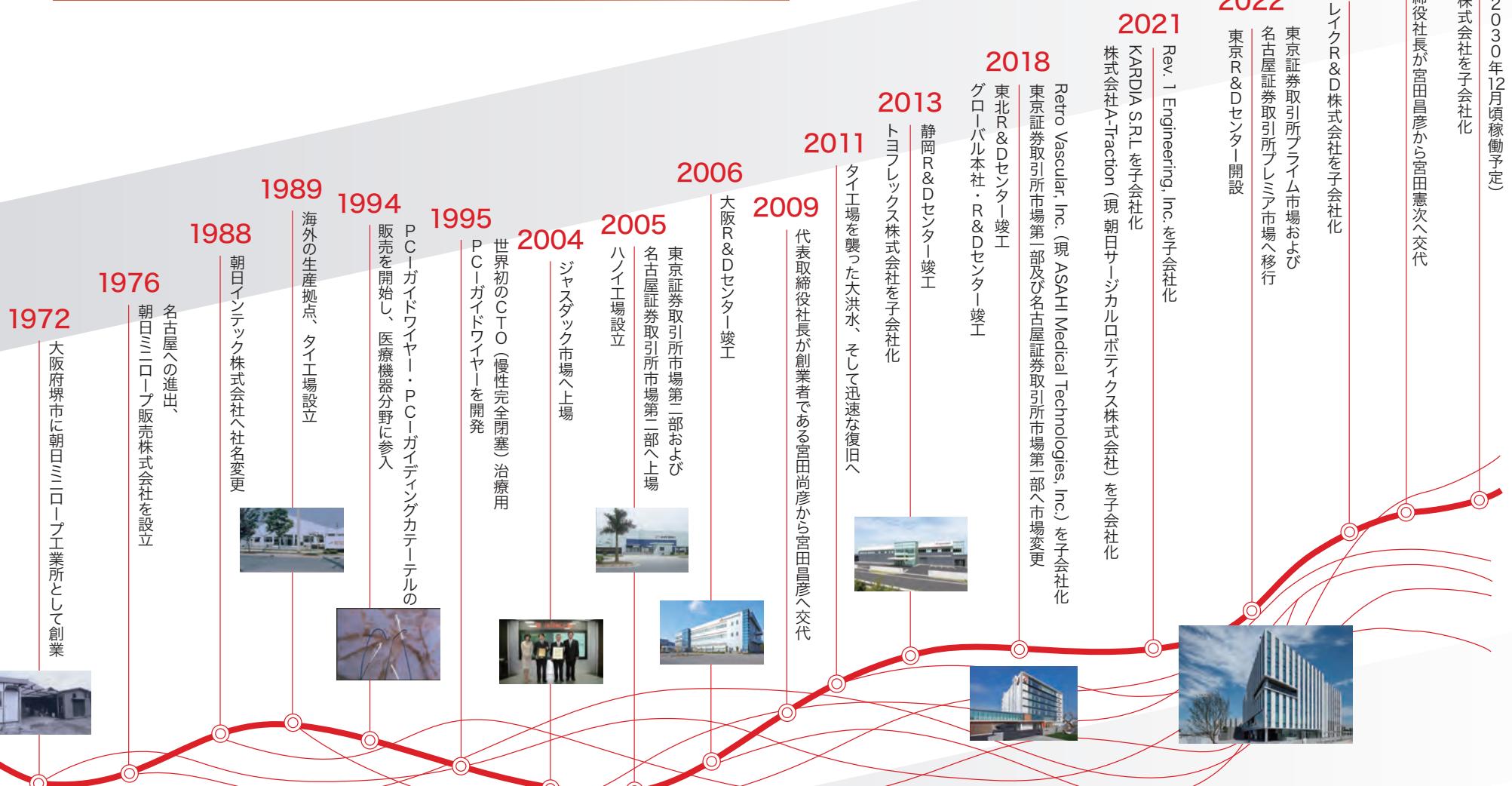


提携・M&A・出資など

技術イノベーションや新製品の創出

## 2-5 歴史と変遷

ASAHI DNAを受け継ぎ、未来へ歩み続けます。



## 2-5 歴史と変遷

## 当社の成長フェーズ

**創業当初の産業機器分野で培った  
高度な極細ステンレスワイヤーロープの技術を活かし、  
医療機器分野へ事業を拡大してきました。**

朝日インテックは、1976年7月に極細ステンレスワイヤーロープの製造メーカーとして設立しました。

1994年には医療機器事業に参入し、「より多くのお客様の夢を実現すること」「画期的なOnly One技術やNumber One製品を世に送り出していくこと」を会社の使命として、研究開発型企業として技術の深耕と研鑽に努めてまいりました。

これらの結果、現在では、世界121を超える国や地域への製品の供給を行う

グローバル医療機器企業へと成長してまいりました。

今後も、技術の深耕と研鑽を下支えとして積極的な事

業拡大を進め、更なる成長を目指してまいります。

ステンレス技術の  
蓄積

国内ドクターとの  
共同開発

医療機器分野への進出  
PCIガイドワイヤーの  
実現

産業機器分野

国内シェアの  
獲得

世界初のCTO治療が  
可能な  
PCIガイドワイヤーの  
実現

ブランド力の  
浸透

海外進出  
大手外資系  
医療機器会社と提携、  
循環器シェアを拡大

非循環器製品  
ラインナップ拡充

代理店切替  
直接販売化  
循環器シェア拡大

高付加価値製品  
ラインナップ拡充

Phase 1

Phase 2

Phase 3

Phase 4

Phase 5

次のステージへ